

(身辺雑記 1) 半世紀前を訪ねて

ゴールデンウィークのような大移動の時期に、遠出をすることはめったにないので、文字どおり暇になる。しかし、新緑のすがすがしい季節だから、家でぼんやりしているのも惜しい。そこで、天気の良い日には、気の向くままに外出することになる。行き先はいろいろだが、時には、昔なじみの場所を訪ねることもある。

過日は、阿佐ヶ谷に行ってみた。もう半世紀も前になるが、学生時代のかなりの年月を駅から徒歩で10分ちょっとはかかる閑静な住宅地で過ごした。かつて「阿佐ヶ谷文士村」という言葉があったことでもわかるとおり、戦前既に住宅街としてひらけた場所なので、それなりの大きさの家が並んでいた。私が下宿したのは、そのような中の一軒で、お子さんたちが結婚などで巣立って空いた部屋を貸しておられたのである。

この前と言っても10年余り前のやはりゴールデンウィークを訪ねたときには、私の下宿していたおうちは空き家になっている様子だったが、外観はほぼかつてのままに残っていたので、実に感慨深く、しばし見とれたものであった。しかし、今回は、予期したとおり、跡形もなく消えていた。これは、前に来たときにも気づいたことだが、地名表示も変えられ、昔の住所地には、全く別の町名が付いていた。

付近の施設では、区立の小学校や中学校、そしてバスの車庫は、元通りの位置にあることが直ぐに確認できた。都心の区では、この半世紀の間に小・中学校の統廃合が大いに進んだはずだが、杉並あたりでは、その必要はなかったのだろう。

今でも戸建てが圧倒的に多い地域の中に、珍しくマンション群を見つけたので近くに寄ってみたら、ここにはかつて神学校があったとその由緒を記した説明板があり、散歩でその前を何度も通った古い記憶がよみがえった。

半世紀前になかった施設としては、区立の図書館ができていた。また、かつては道幅が狭いのにバスが走っていた通りが、すぐ近くに広い道路が整備されて、ほとんど車の来ない気楽に歩ける道に変わっていた。阿佐ヶ谷駅も高架になり、昔の面影は全くない。

ただ、中央線の電車の明るいオレンジ色(公式には朱色と呼ぶようだが)は半世紀前にも既に登場していて、国電(現在のJRの電車)のくすんだ色を見慣れていた目には、とても新鮮に映った。その後、山手線など他の線にも明るいラインカラーが次々と生まれたが、多分、中央線が最初だったのではないか。

私の住んでいた所とは駅の反対側を走っていたため、当時利用したことは全くなかったが、新宿から荻窪まで都電が走っていた。やがて、地下鉄の丸の内線が、ほとんど同じ経路で建設されて荻窪まで全通したら、程なく都電の中でも真っ先に廃止されてしまった。その地下鉄線に南阿佐ヶ谷という駅があるので、JRの阿佐ヶ谷駅を通り越して歩いたら、両駅間はせいぜい徒歩7分程度の距離だった。

そのまま、南阿佐ヶ谷駅から乗車して帰途につく車中で、他の人には面白くもないだろうけれど、自らの備忘録のために、これを書くことに決めた。